



『脳梗塞の原因となる怖い不整脈 ・・・心房細動』



しもじ内科クリニック

院長 下地栄壮

脳梗塞の約 30%は、“心原性脳塞栓症(しんげんせいのうそくせんしょう)”という“心房細動”などの心臓の病気が原因で起こります。心房細動とは心臓の拍動のリズムが乱れる不整脈の一つです。

正常な心臓は、心臓内で発生する電気刺激によって規則正しい収縮と拡張(拍動)を繰り返して血液を全身に送り出します。心房細動は、心臓の左心房にある肺静脈という血管付近から電気刺激が無秩序に生じることで起こります。心房細動が起こると、心房が震えるように細かく不規則に動くために十分に拍動しなくなり、心臓から血液を効率的に送り出すことが出来なくなります。心臓の中で血液の流れが滞るようになると、滞った血液がよどんで血栓(血の塊)ができやすくなります。直径が数cmの大きさのものができると、その血栓が脳の血管に運ばれて詰まると、心原性脳塞栓症という脳梗塞を起こしてしまいます。

心原性脳塞栓症は、比較的大きな血管が詰まるため、大きな脳梗塞を起こして重い後遺症が残る可能性が高いといわれています。約半数は寝たきり、若しくは歩くのに介助が必要な状態にあるというデータもあります。

心房細動が起こる原因は、加齢、高血圧、糖尿病、心臓病、甲状腺機能亢進症、アルコールやカフェインの過剰摂取、睡眠不足、ストレス、喫煙、激しい運動など様々ですが、特に高齢者、高血圧や糖尿病がある人は注意が必要です。

【心房細動の有病率】は 40 歳代(男性 0.24%・女性 0.04%)、50 歳代(男性 0.78%・女性 0.12%)、60 歳代(男性 1.94%・女性 0.42%)、70 歳代(男性 3.44%・女性 1.12%)、80 歳以上(男性 4.43%・女性 2.19%) と高齢になる程上がる事が分かっており、男性の方が女性よりも心房細動が起こりやす

いといわれています。2020 年で 97.4 万人とされる心房細動の患者数は、2030 年には 104.9 万人と 100 万人を超えると予想されており、社会の高齢化が進むにつれて今後ますます増加すると考えられています。

心原性脳塞栓症を予防するには、心房細動を早期に発見して治療を開始することが重要です。心房細動は、動悸や胸苦しさ、息切れ、めまいなどの症状を自覚することがありますが、自覚症状がない場合も多く、健康診断や病院を受診した際に偶然見つかることもあります。そこで、日頃から自分で脈を測って、不整脈をチェックする習慣をつけておきましょう。リズムが不規則になったり、回数が少な過ぎたり多すぎる(1 分間に 50-100 回が目安)場合は、早目に医師に相談しましょう。

心房細動が疑われる場合には、心電図検査やホルター心電図(24 時間心電図検査)、心臓超音波検査を行います。心房細動が見つかった場合は、薬物療法やカテーテルアブレーションという治療法が検討されます。

《薬物治療》

- ① 抗凝固薬：血液を固まりにくくし、血栓ができるのを抑える薬で、脳梗塞のリスクが高い時などに使用されます。副作用として出血が起こりやすくなることに注意が必要です。
- ② 抗不整脈：心臓の異常な電気刺激を抑えて、心房細動を起こりにくくする薬です。ただし、抗不整脈だけで完全に心房細動を抑えることはできません。また、長期間飲み続けると、効果が弱くなったり、心不全などが起こることがあるので注意が必要です。

《カテーテルアブレーション》

カテーテルという細い管を、脚の付け根の静脈から心臓の中まで送り込み、異常な電気刺激が起こっている部位を高周波電流で焼灼して心房細動の発生を抑えます。他にも、先端に風船状に膨らむ器具を付けたカテーテルを用いて、膨らませた風船を心筋に密着させ治療するバルーンアブレーションという方法も行われています。



しもじ内科クリニック(nico nico studio)

東区三苦 3 丁目 2-49(福岡銀行美和台支店隣り)

TEL:092-605-6300